**新しい道を示してください**

「6,453の2,495！」一体、この数字の意味とは何かと聞きたいでしょう？

韓国人として最初に叙階された司祭は、聖アンデレ金大建神父様です。その聖人が司祭になったのは、1845年のことでした。彼は十五歳の時中国のマカオというところに行って、そこにあった神学校で勉強して、24歳の時、同じ中国の金家港という小教区で叙階されました。それから金神父様は帰国して、約一年間司牧しましたが、突然逮捕されて殉教の冠をお受けになったのです。その一年間、金神父様は信者さん達の為、また、神様の為、一生懸命に働きました。彼の一番重要な仕事は、勿論、信者との出会いでしたが、朝鮮半島の一番北の方から一番南の方まで、ずっと歩きながら彼らと出会ったに違いありません。なぜなら、国が禁止していたカトリックの司祭としての身分を隠すために、馬を用いることもできなかったし、しかも、昼間を避けて夜の間、移動しなければならなかったからです。それは本当に大変なことだったと思います。また、彼のもう一つの大事な仕事は、外国人の司祭や司教様を入国させるための色々な方法を工夫したり実現したりすることでした。ただ一人の司祭だけでも良かったので、そうしたと思います。そういうわけで、その金神父様のことを考える度ごとに、今の時代の司祭としての私自身は、どれほどの熱意を持って生活しているかをも反省するようになります。

その金神父様が第一番目です。それから174年が経った、今年二月、ソウル教区の新司祭になった神父様の中の末っ子が6,453番目です。つまり、私は金神父様から2,495番目の司祭だということです。毎年、七月になったら、癖のように考えているのは、私自身の今までの司祭としての様子についてのことです。「司祭として歩んできた道とはどんな道だったのか、本当に神様と教会を愛しながら生きてきたのか。」などを考えてみると、悲しみや恥ずかしさだけが心に残ります。

叙階のため私が選んだ聖書のみ言葉は次の通りです。

「主よ、あなたの道をお教えください。私はあなたのまことの中を歩みます。み名を畏れ敬うことができるように一筋の心を私にお与えください。」（詩編　86，11）

今までの25年より、これからの時間を大事にしたいと思います。信者の皆さんの多くのお祈りをよろしくお願いいたします。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　主任司祭　ヤコブ　姜　真求

**をください**

「6,453の2,495！」、こののとはかとでしょう？

としてにされたは、アンデレです。そのがになったのは、1845のことでした。はの、のマカオというところに、そこにあったでして、24の、同じの金家港というでされました。それからはして、しましたが、されてのをになったのです。

その、はさんの、また、の、に。彼のなは、、とのでしたが、ののからのまで、ずっととにありません。なぜなら、がしていたカトリックのとしてのをために、をこともできなかったし、しかも、をの、しなければならなかったからです。それはになことだったと。また、のもうのなは、のやをさせるためのなをしたりしたりすることでした。ただのだけでもので、そうしたと。そういうわけで、そののことをごとに、ののとしてのは、どれほどのをしているかをもするようになります。

そのがです。それから174が、今年、ソウルのになったののが6,453です。つまり、はから2,495のだということです。、になったら、のようにいるのは、のまでのとしてのについてのことです。「としてきたとはどんなだったのか、にとをきたのか。」などをみると、やだけがに。

のためがのみはのです。

「よ、あなたのをください。はあなたのまことのを。みをことができるようにのをにください。」（　86，11）

までの25より、これからのをにしたいと。のののをよろしくいたします。